

# 韓国はJCO臨界事故をどう見たか 藤家原子力委員長代理が訪韓で受けた印象

「非日本的 (un-japanese) なことが起きましたね」——九月三十日に発生したJCO臨界事故について、訪韓した藤家洋一原子力委員長代理に、韓国の原子力専門家の多くはまずこう語りかけたという。そして専門家は次に、原子力・電力界と政府が事故後にとつた対応を評価し、「日本ではJCO事故を教訓として活かせる体制ができていますね」と感想を述べたという。

藤家氏の韓国訪問は、韓国原子力学会の発足三十周年記念学術会議に招待されたもので、十月二十八日より三日にかけて行なわれた。同氏にとつ

ては、JCO東海事業所での臨界事故後初の原子力委員長代理としての外国訪問だった。

韓国では日本と同じように原子力発電を推進し、現在、発電電力量の四一%と日本を上回る発電実績を上げている。その中で隣国・日本で起こった未曾有の原子力事故は、韓国国民を驚かせた。藤家氏の訪韓は、JCO臨界事故への疑念が韓国国民に依然大きく残る中でのもとなった。

## 「日本人は訓練された民族」と韓国記者

しかし藤家氏によると、面会した政府・原子力学会の要人、また会見を行なったメディアも、この事故をすでに冷静に受けとめていた。共同記者会見では、事故の内容、対応などについての質疑の後、「あれだけの事故が起きながら、何故東海村を始めたし日本ではパニックが起きなかつたのか」という

質問が出た。

それに対して藤家氏が、「阪神・淡路大震災の時も同じようにパニックは起きなかつた」と答えると、質問した記者は「日本には昔から台風や地震など自然災害が多く、日本人は訓練された民族かもしれませんね」と感想を述べた。

## 原子力開発で日韓協力を

藤家氏の訪韓日程の内容は、韓国原子力産業会議、韓国原子力文化財団の訪問、また科学技術大臣を表敬訪問、大統領諮問委員会との懇談だった。その合間を縫うように、共同記者会見が行なわれ、またKBS（韓国放送公社）による一時間の原子力特集テレビ番組にゲストとして招かれ、元NRC（米原子力規制委員会）議長であるシャーリー・ジャクソン氏と共に出演した。これらの機会を通じて藤家氏は、ま

ずJCO臨界事故が非常に杜撰な管理のもとでの事故であったことを認めた上で、日本が無資源国であること、COP3の制約があること、平和利用に徹していることを指摘。原子力開発を継続することの必要性を訴えた。

これに対して韓国側は、冷静、謙虚に藤家氏の意見を受けとめていたという。過去の歴史から韓国国民の日本を見る目は時に厳しい。しかし韓国では、日本が原子力開発で一歩リードすることを認めた上で、JCO臨界事故を真摯に受けとめ、これから同国が原子力開発を進める上での貴重な教訓にしようとしているようだ。

「日本と韓国は地政学的に無資源国として同じ条件にある。この十年で韓国も原子力開発が進み、日本と協力しあえる関係になっている。原子力開発を進める上で日本は今後、韓国のことを頭に入れるべきだ」——藤家氏は今回の訪韓の感想をこう述べている。

「日本と韓国は共に無資源国。協力しあうべきだ」と藤家委員長代理

